



巻 頭 言

除 草 剤 の 国 際 性

石原産業(株) 農薬営業本部長 辻 醇 一

先ず最初に今回の植調協会吉沢顧問の叙勲受章に心からお祝いを申し上げます。

今回の叙勲は、吉沢顧問にとって誠に名誉あることですが、この叙勲は同時に植調協会が日本農業の発展に果して来た役割りが、国家的に高く評価されたことでもあり、植調協会の事業運営に関係してきた一員として、誠に意義深いものがあります。

我が国に、化学除草が導入されたのは1950年「2,4-D」が水田後期広葉雑草防除用に使用されたのにはじまったといわれております。

以来我が国農業に適した除草剤の改良研究、応用研究が急速に進められ、水田では、除草剤のみによる薬剤除草体系がいち速く確立されるに至りました。その後更に性能の優れた除草剤がつぎつぎに新しく開発、実用化されてきました。その結果除草剤導入前は10a当り50時間余の除草作業時間を必要としていたのが、現在では3時間余りまでに著しく短縮されてきております。

このような我が国における薬剤除草の進展は農業の近代化、省力化に大きく貢献してきており、ひいては我が国の産業、経済発展に多大の寄与をしてきているといえるでしょう。

この我が国除草剤の発展に、導入当初より関与され、現在尚高い先見性と強いリーダーシップにより植調協会の運営を支えられている吉沢顧問に対し改めて敬意を表します。

除草剤は、近代農業を支える重要資材であり、世界的にみて農薬全使用高の半分近くを占めていると紹介されています。

英国の農薬関係調査専門機関が最近発表した1992年度では、除草剤は全体の45%強を占め、

殺虫(約30%弱)、殺菌(約20%弱)に比べて高い比率を示しています。この傾向は大きな変化はありませんが、最近的世界的な農薬使用の頭打ち状況のなかで、除草剤は比較的安定した動きを示し、相対的比率は高まる傾向を示しています。(注:日本での除草剤の全体に対する割合は約1/3弱)

なかでも世界の食糧供給基地としての役割りを担っている大規模農業国における除草剤の占める割合は全て50%を大きく上廻っております。即ち米国では64%強、ブラジルで52%強、アルゼンチンで67%、カナダで80%弱、オーストラリアで64%となっています。しかし農業近代化の途上にある中国(11%)、インド(14%)とかなり低率の諸国もあります。ただこれらの除草剤使用が低率の諸国でも、農業の近代化が進められるなかで除草剤の使用は急速に増大してゆくものと思われます。

一方この除草剤使用高(92年度11,440百万\$)のうち、麦類(18.5%)、トウモロコシ(16.9%)、大豆(14.6%)の3主要作物に対する使用高が50%に達しており、これら作物にとって除草剤使用が如何に重要な役割りをもっているかを如実にものがたっています。(注:米用除草剤の使用割合9.0%)

今や日本経済全体が大きく国際化を進展させこれに対応する国内体制の改革が叫ばれてきております。農業もその枠外ではないでしょう。植調協会としても現在まで日本を中心に蓄積されてきた優れた技術力を、今こそ国際化の波に積極的に乗せて、日本の植調協会より世界の植調協会へと発展してゆくことを強く希求しているものです。